

2023 年度 札幌大谷大学短期大学部
卒業生の就職先アンケート（保育科・専攻科保育専攻）
結果報告

- 調査対象 ① 2016(平成 28)年度～2020(令和 2)年度卒業生の就職先
② 2021(令和 3)年度～2022(令和 4)年度卒業生の就職先
- 実施目的 卒業後の進路・就職状況から、教育の成果や効果が上がっているかについて
検証し、今後の教育活動の改善に反映させることを目的とする。
- 調査時期 ① 2022 年 3 月 25 日(金)～4 月 22 日(金)
② 2023 年 9 月 1 日(金)～9 月 29 日(金)
- 調査方法 WEB アンケート（郵送による告知）
- 回答数・回答率 114 件／207 件=54.6%

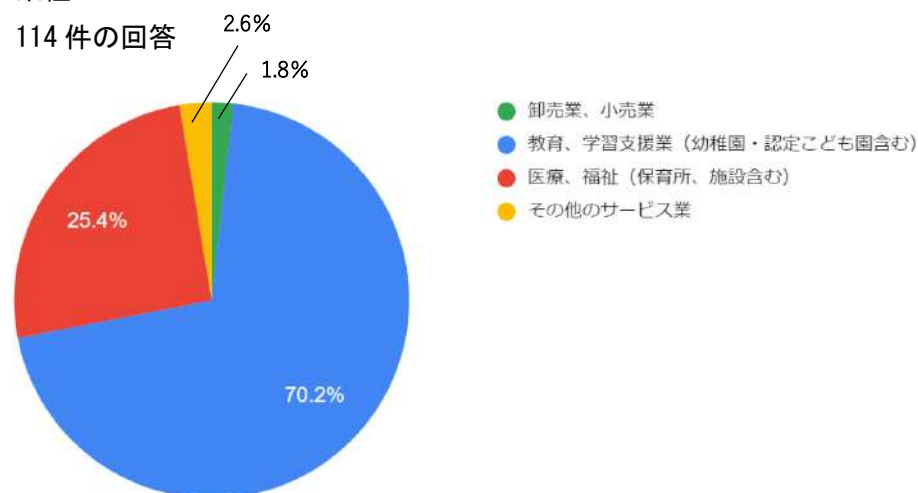
【回答者の属性】

○ 企業名
(省略)

○ 部署名・役職名
(省略)

○ 業種

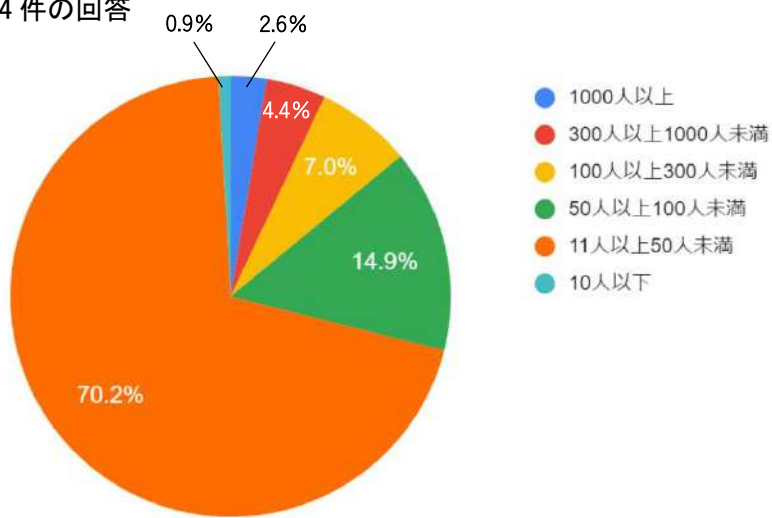
114 件の回答



業 種	回答数
卸売業、小売業	2
教育、学習支援業（幼稚園・認定こども園含む）	80
医療、福祉（保育所、施設含む）	29
その他のサービス業	3

○ 事業所規模（従業員数）

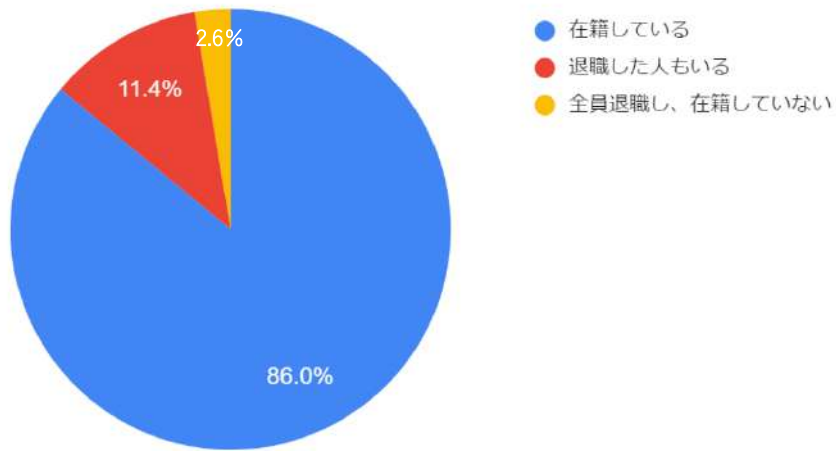
114 件の回答



業 種	回答数
1000人以上	3
300人以上1000人未満	5
100人以上300人未満	8
50人以上100人未満	17
11人以上50人未満	80
10人以下	1

【問 1】札幌大谷大学出身者の在籍状況

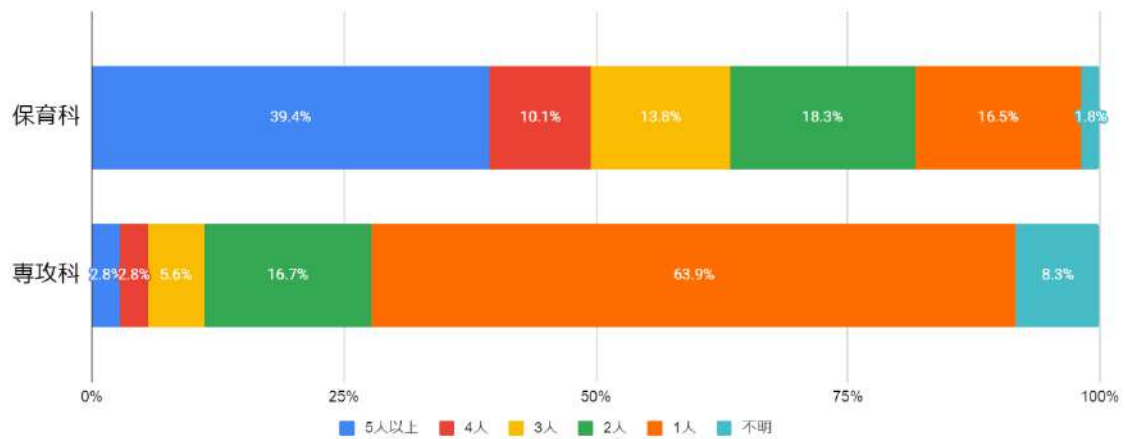
114 件の回答



業 種	回答数
在籍している	98
退職した人もいる	13
全員退職し、在籍していない	3

【問 2】在籍している（在籍していた）人の専攻学科と人数

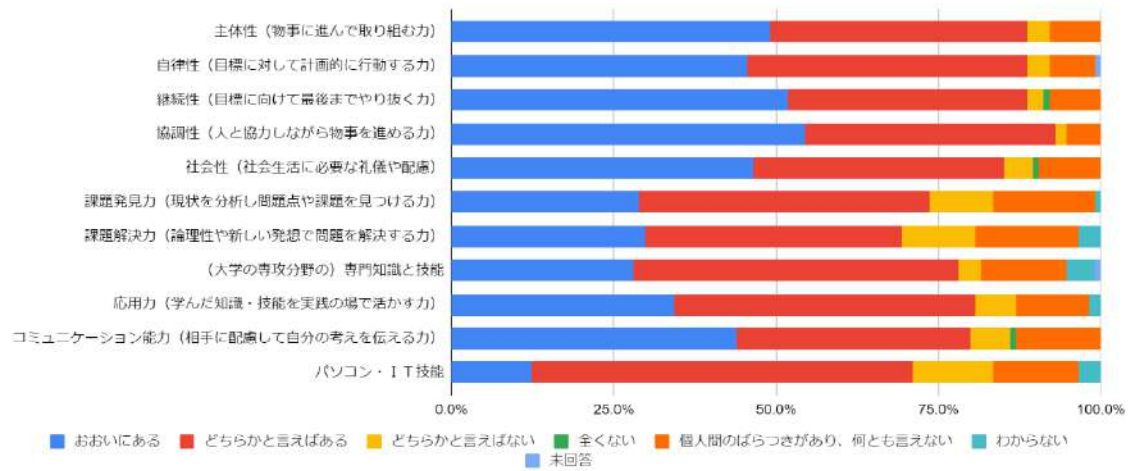
114 件の回答



専攻学科	5人以上	4人	3人	2人	1人	不明
保育科	43	11	15	20	18	2
専攻科保育専攻	1	1	2	6	23	3

【問3】能力や資質についての評価

114件の回答



現在の仕事において必要とされる能力・資質	おおいいある	どちらかと言えはある	どちらかと言えはない	全くない	個人間のばらつきがあり、何とも言えない	わからない	未回答
主体性（物事に進んで取り組む力）	56	45	4	0	9	0	0
自律性（目標に対して計画的に行動する力）	52	49	4	0	8	0	1
継続性（目標に向けて最後までやり抜く力）	59	42	3	1	9	0	0
協調性（人と協力しながら物事を進める力）	62	44	2	0	6	0	0
社会性（社会生活に必要な礼儀や配慮）	53	44	5	1	11	0	0
課題発見力（現状を分析し問題点や課題を見つける力）	33	51	11	0	18	1	0
課題解決力（論理性や新しい発想で問題を解決する力）	34	45	13	0	18	4	0
（専攻分野の）専門知識と技能	32	57	4	0	15	5	1
応用力（学んだ知識・技能を実践の場で活かす力）	39	53	7	0	13	2	0
コミュニケーション能力（相手に配慮して自分の考えを伝える力）	50	41	7	1	15	0	0
パソコン・IT技能	14	67	14	0	15	4	0

【問4】採用選考で特に重視する点（複数回答可）

114件の回答

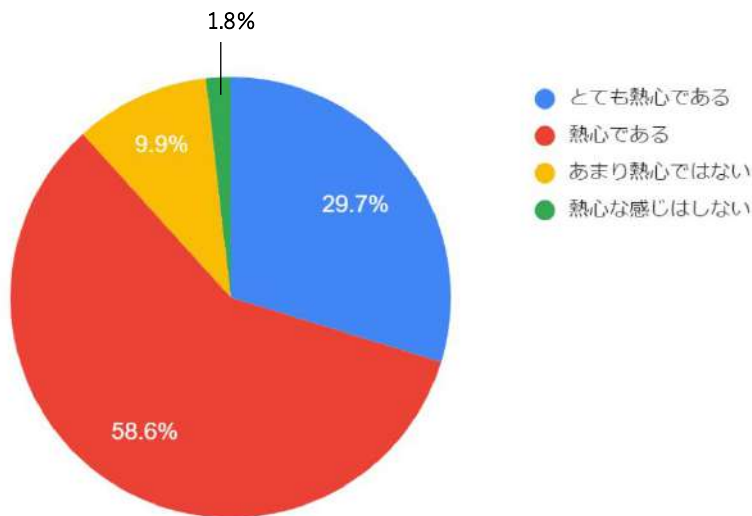
業 種		回答数
コミュニケーション能力		98
論理的思考力		12
学業成績		7
協調性		101
積極性		59
発信力		14
専門の知識や技能		24
リーダーシップ力		9
創造性		18
柔軟性		58
語学力		1
留学経験		0
部活経験		6
一般常識・マナー		66
ストレス耐性		29
課題解決力		31
潜在能力（ポテンシャル）		10
その他 （自由記述）	ピアノ演奏	1
	その時の学園に必要な要素を備えた人物	1
	人柄	1

【問5】札幌大谷大学に抱く印象や特徴

（省略）

【問6】大学の就職支援活動

111件の回答



大学の就職支援活動	回答数
ととも熱心である	33
熱心である	65
あまり熱心ではない	11
熱心な感じはしない	2

【問7】本学の教育あるいは採用にあたっての感想・要望

(省略)

【結果の考察】

就職先アンケートの結果から、教育効果の検証とキャリア支援の改善と向上のための検討を行った。

対人スキルは評価が高いが、一方でITの使い方は明確に評価が抑え目である。選考の際に重視することは対人スキルのようなので問題はないようだが、今後の現場状況を予測するに、IT技術、+専門性の活用や注意点などの強化を図るべきと思われる。

また、現場に出てから自信を持つまで少し時間を要するとの評価も一定数あることから、専門性を如何に現場で発揮できるか、イメージを持ちやすくする必要がある。

さらに、課題発見や専門性、応用力はやや評価が抑え目で、選考の際に重視する傾向がみられる柔軟性に関連するものとして、先述のITと併せて活用する力を養うことが必要であると考えられる。

総じて、対人スキルは卒業生・就職先が重要視しており評価も高いが、一方で、専門性の発揮や IT にかかわる能力の強化は必要と思われる。

なお、就職先アンケートの「選考で重視すること」には IT が入っていないため、どの程度求められているかは未知数だが、2023 年(5月)の子ども家庭庁の連絡事項にも、記録の管理等の効率化について ICT 機器の活用の有効性と積極的な活用を検討することについて示されており、今後業務効率化のために保育業務支援システム等が導入される可能性がある。

この点を踏まえても、保育現場での活用についてはスキルアップを図るものとして考慮すべき事柄と考える。

※個人情報を含むもの、自由記述につきましては割愛しております。

以 上